

2021年4月14日

令和2年度第2回 海岸工学幹事会議事録

開催日時：令和3年4月14日（月）14:00～17:00

開催場所：ZOOM会議

出席者：後藤委員長、佐々木副委員長、田島幹事長、川崎、内山、荒木、北野、有川(各小委員長)、鈴木、安田、越村、遠藤、小竹(各副小委員長)、渡部、渡辺、嶋原、原田、太田、加藤、高川、新井田(坪野代理)、片山、山本、瀬戸口、山城(委員兼幹事)、山中(委員)、小林(2021年度海岸工学講演会実行委員)、下園(2022年度水工学夏期研修会幹事)

議事録：下園

資料：

- ・ 令和2年度第2回海岸工学幹事会議事次第（資料1）
- ・ PowerPoint資料（資料2）

■委員の就任および交代

- ・ 土木学会論文集B部門合同編集小委員会委員：嶋原委員→五十里先生（京大）に交代

■議事前報告および議事録の確認

- ・ 前回委員会の議事録を確認した。
- ・ 第67回海岸工学講演会（オンライン実施）について、参加者数が次の通りであったことが報告された：参加登録者828。費用はZOOM利用料の3万円のみであった。

■海岸工学論文集第68巻特集号査読について（川崎・鈴木・田島）

- ・ 登録論文数：258編（和文237編，英文21編）
- ・ 査読者：113名（幹事26，編集委27，その他60）
- ・ 査読数：11.4編/人
- ・ 査読者として新たに4名の方が加わった。
- ・ 通常号からの発表希望3編（該当する論文5編中）。要旨査読を実施したが今年度は移行措置として点数に関わらず採択することとした。
- ・ 査読者の査読平均点は3.70（6点満点）で昨年より分布の幅が狭かった。和文・英文による平均点分布に違いはなかった。
- ・ 査読結果は18点以上が185編，17点が21編，16点が26編，2または1がついた論文が20編あった。
- ・ 【審議】採択案として
 - A) 16点以上の全てを採択：229編（採択率88.8%）
 - B) 17点以上の全て（206編），16点で2点以下がない（11編）採択：217編（採択率84.1%）

が論文編集小委員会から提案され，議論の結果，本論文査読を厳格に行うことを前提にA案を採用することとした。今後の検討のため，第一段階審査と第二段階審査の点数の関係について編集小委員会で調査を行うこととした。

- ・ 16点論文に2編，17点論文に1編，18点論文に1編，査読者が1点をつけた要旨があったが，投稿要旨，および査読コメントをcecで確認した結果，ともに第二段階審査にて評価することとし，採択として進めることとした。
- ・ 投稿数の推移については，昨年度から48編の減少があり，分野別では漂砂を除く分野で減少が見られた。投稿数の減少についてはコロナウィルスの影響もあるため，継続

的に見て判断した方がよいとの意見があった。

- ・ 著者負担金は例年通りとするが、現時点で本論文の投稿数が不明のため今後変更する可能性がある。
- ・ 要旨の投稿について大きな混乱はなかった。今年度から採択後に全員が extended abstract を出すことになったため、第一段階審査で extended abstract の様式（1 ページ目に著者情報が記載）で投稿されているものが 10 編あった。他にも、本論文が投稿される、原稿ファイルがアップロードされていないケースがあった。また、図面の文字化けの指摘があったが、著者による確認・チェックを基本として今後も対応する。
- ・ 論文投稿数の減少についての対応については WG のメンバーを中心に、今後の論文、査読、講演会のあり方を含めて議論する方針。

■第 68 回海岸工学講演会シンポジウム案について(加藤)

「海岸の将来ビジョンとその実現に向けた取り組み」と題したシンポジウム案の説明があり、講演会での実施が承認された。

- ・ 趣旨説明
- ・ 話題提供：2100 年の海岸のあるべき姿、海岸工学分野外からの 2 名の話題提供
- ・ 海岸行政の動向（海岸保全基本方針の変更）田中海岸室長
- ・ 総合討論：海岸の将来ビジョン、課題への取り組み方、学会の役割など
進行：加藤委員、パネラー：話題提供者（2 名）、海岸工学学識者、田中海岸室長

■第 68 回海岸工学講演会シンポジウム案について(小竹)

「波浪と地盤の相互作用について考える」と題したシンポジウム案の説明があり講演会での実施が承認された。水理模型実験における地盤材料の取扱方法に関する研究小委員会のメンバーを中心に、有川委員をコーディネーターとして前半で出版物の紹介（前半、各章主査が登壇）、後半にパネルディスカッション（波動、地盤の複合場における相似則について）を実施する予定

■第 68 回海岸工学講演会準備状況について(小林・北野)

日程：2021 年 11 月 10 日～12 日

会場：じゅうろくプラザ・岐阜大学サテライトキャンパス（いずれも岐阜駅前）

懇親会：岐阜ワシントンホテルプラザ スカイルーム

- ・ 講演会会場はじゅうろくプラザに集約。委員会の会場もじゅうろくプラザに準備するが、飲食が可能な部屋は 5 階のみのため、昼食つきの小委員会はサテライトキャンパスで行う。前日シンポジウムもじゅうろくプラザで実施する。
- ・ コロナウィルス対策で各室定員の半数での運用要請が出る可能性がある。
- ・ 現地見学：11/9 実施。名古屋港コース、長良川河口堰コース。定員は各コース 50 名
- ・ ハイブリッド開催については 2020 年度のオンライン講演会実行 WG メンバーおよび広報・出版小委員会を中心に検討を進める。

■第 69 回海岸工学講演会準備状況について(鴨原)

後援：国交省関東地方整備局、横須賀市【予定】

日程：2022 年 11 月 9 日～11 日

会場：未定（従来型、ハイブリッド型で異なる会場を検討中）

- ・ 会場については従来型（5 会場対面）とハイブリッド型の可能性を検討している。今後、ハイブリッドでの実施可能性について詳細に検討した上で会場を確定する。
(1) 従来型の開催案：ベイスクエアメルキュールホテル、ヨコスカ・ベイサイド・ポケット、産業交流プラザで 5 会場を確保（費用見積：309 万円）
(2) ハイブリッド型の実施案：3 会場を対面、2 会場をオンライン専用とした場合

候補1：産業交流プラザの小部屋を利用する（費用見積：119万円）

候補2：ウェルクよこすかに会場を集約して開催する案（費用見積：35万円）

■第56回水工学に関する夏期研修会（Bコース）について（山中）

日程：2021年8月30日、31日。会場：オンライン

- ・前年度予定していた内容でオンライン実施する
- ・定員はA,Bコースともに定員250名
- ・受講料は従来通り一般16,000円、学生10,000円
- ・申し込み締め切りは2021年8月9日
- ・オンライン開催ではあるものの高知大会という形で残すよう働きかける。

テーマ：「海岸災害対策におけるこれからの論点と適応技術」

第一日(8/30)

那須清吾（高知工科大学・教授）：気候変動の地域影響予測と適応政策の在り方(共通セッション)

佐藤慎司（高知工科大学・教授）：UAVを用いた海岸情報マッピング技術

福谷陽（関東学院大学・准教授）：確率論的津波ハザード評価とその利活用

相澤幹男（四国地方整備局高知港湾・空港整備事務所・所長）：高知港海岸における三重防護による地震津波対策について

第二日(8/31)

磯部雅彦（高知工科大学・教授、学長）：高潮の基礎と防災の枠組み(共通セッション)

河野達仁（東北大学・教授）：海岸防災計画における経済学手法の適用と有用性

富田孝史（名古屋大学・教授）：タイトル未定

馬場俊孝（徳島大学・教授）：津波即時予測技術と今後の展望

■第57回水工学に関する夏期研修会（Bコース）について

関東開催、幹事は下園（東大）が担当する。テーマについては今後検討をすすめる。

■Coastal Engineering Journal について（内山）

- ・ 2019 IF：2.032.
- ・ 査読の効率化：2019年と比較して Accept 論文は282.4日→201.4日、Reject 論文は92.4日→57.3日に短縮した。
- ・ 2020年は全41編発行（うち2編は Survey report）。2019年は39編
- ・ 出版社（T&F）とプロダクション段階で品質上のトラブルがあった。
- ・ Special Issue on Coastal Blue Carbon and Green Infrastructure は2021 Issue 3 (Sep.)を目指す。間に合わなかったものについては通常号に回す方針。
- ・ Special Issue on Coastal Hazards and Risks due to Tropical Cyclones は、本論文の投稿が5月1日締切で進行中。
- ・ CEJ Award：Editorial Board での審議の結果、以下の論文を推薦することとした。

Rafael Aránguiz, Miguel Esteban, Hiroshi Takagi, Takahito Mikami, Tomoyuki Takabatake, Matías Gómez, Juan González, Tomoya Shibayama, Ryo Okuwaki, Yuji Yagi, Kousuke Shimizu, Hendra Achiari, Jacob Stolle, Ian Robertson, Koichiro Ohira, Ryota Nakamura, Yuta Nishida, Clemens Krautwald, Nils Goseberg & Ioan Nistor (2020) “The 2018 Sulawesi tsunamis in Palu city as a result of several landslides and coseismic tsunamis”, Coastal Engineering Journal, 62:4, 445-459 DOI: 10.1080/21664250.2020.1780719

- ・ CEJ Citation Award: Web of Science に基づき以下の論文を推薦することとした。

Xing Zheng, Songdong Shao, Abbas Khayyer, Wenyang Duan, Qingwei Ma & Kangping Liao (2017) “Corrected First-Order Derivative ISPH in Water Wave Simulations” Coastal Engineering Journal, 59:1, 1750010-1-1750010-29, DOI: 10.1142/S0578563417500103

- ・ JAMSTEC 中西賞 選考基準に基づき、以下の論文を推薦することとした。

Naoto Kihara & Hideki Kaida (2020) “Applicability of tracking simulations for probabilistic assessment of floating debris collision in tsunami inundation flow”, Coastal Engineering Journal, 62:1, 69-84, DOI: 10.1080/21664250.2019.1706221

- ・ CEJ Reviewer Award: 4 編以上を平均遅延 4 日以下で完了した 7 名を表彰することとした。
- ・ 出版社より、1,281,519 円のロイヤリティ収入があった。CEJ 委員会での議論の結果、用途としては以下の案が出ている：(1) CEJ 招待論文原稿料、(2) 海岸工学講演会への投稿料免除、(3) CEJ スカラーシップ・フェローシップ、(4) CEJ 英文校閲補助、(5) 海岸工学講演会への外国人招聘、(6) CEJ SI インセンティブ (SI 企画にかかる集会費用等)、(7) オープンアクセス費の補助、(8) CEJ ノベルティの制作・配布
- (7)についてオープンアクセスと非オープンアクセス論文の引用数を調べてどの程度の効果が見込めるかを検討することとした。

■小委員会について

- ・ 広報・出版小委員会(荒木)
 - 引き続き Web 情報の充実をすすめる。2021 年 1 月に古い HP サーバーを解約した。
 - ハイブリッド開催について WG を作って検討を進める。ハイブリッド開催した場合の企業展示、会場での USB メモリ配布について協力企業にヒアリングを行う
- ・ 水理模型実験における地盤材料の取扱方法に関する研究小委員会(有川)
 - 出版企画が承認され、2021 年 9 月に出版予定。ページ数 200、予定発行部数 1025
 - 海外出版物の著作権利用料として数万円を委員会から支出することとした。
- ・ 今年度で終了する研究小委員会（地盤材料、減災アセス、津波作用、沿岸域の気候変動）については、活動報告書を幹事長宛に提出することとした。また研究会を含め新たな形で活動を継続する場合には新年度の海岸工学委員会でその可否を審議することとした。

■その他

- ・ JSCE-CCES Joint Symposium of Civil Engineering（北野・渡部）
 - 土木学会と中国土木工程会の共催イベント。第 3 回は 2020 年に実施予定であったがコロナウィルスの影響で延期され、2021 年 10 月 20-22 日にオンライン開催することとなった。
 - テーマは海岸工学と水工学で、20 件ほどのアブストラクト投稿依頼がある。アブストラクト集を作成するのみで、既発表の内容でも発表できる。
 - 国際センターのサポートで北野・渡部委員（海岸工学）、矢野・梅田委員（水工学）が準備を進めている。
- ・ 土木学会論文集査読システムについて（川崎）
 - 土木学会論文集の刷新に合わせて投稿システムの改修が検討されている。現行システムの継続利用、現行システムの改修利用、新たにアトラス (Editorial Manager)

- に移行するかについて委員会としての意見が求められている。
- 通常号についてはアトラスに移行することで問題ないと回答することとした。特集号については査読者の割り振りが従来のようにできるかが移行にあたっての課題。システムのカスタマイズの可能性について確認し、次期体制で引き続き検討を進めることとした。
 -
 - ・ 戦略 WG での検討について（佐々木・原田）
 - CEJ 採択論文の海岸工学講演会での招待講演について正式呼称を CEJ 招待講演（Invited talk from CEJ）とした。
 - ポスター発表の導入に関するアンケートの実施
回答者の 1/3 程度があった方がよい、1/5 程度がなくてもよいと回答。ポスター発表のメリット・デメリットとして挙げた主要な点は以下の通り。引き続き、導入するかどうか、導入方法について検討を行う。
メリット：交流促進，深い議論ができる，参加者増への期待（学生）
デメリット：運営上の問題（会場準備），発表者の拘束時間，講演会の重みが低下，発表の質の低下，人が集まらない可能性

以上